

大学院都市持続再生学コース 東大まちづくり大学院 シラバス

講義名	日常生活圏におけるリジェネラティブ・デザイン
担当教員名	中島弘貴・須永和久
単位数(コマ数)	1.5単位 (7コマ)
講義曜日・時限	土曜日・3～5限
講義目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活圏レベルの広がりを持つ地区を対象とするまちづくりの技法について、演習する。 ・今年度は、東京都世田谷区にある下北沢駅周辺を演習の対象地とする。 ・対象地区は、都市計画道路事業や小田急線の連続立体交差事業を契機として、小田急線「東北沢駅」～「世田谷代田駅」の地下化に伴う全長約1.7kmの線路跡地の開発「下北線路街」が「支援型開発＝サーバント・デベロップメント」というコンセプトの下、進められている。 ・下北沢は、様々な文化の発信地としての歴史を有し、全世界対象の都市調査「Time OutIndex」をもとに、「The 51 coolest neighbourhoods in the world (世界で最もクールな地域)」と題したランキングにおいて、ランクインしている(2022年;7位, 2019年;2位)。 ・世田谷区では、市民主体のまちづくりが1980年代頃から展開され、「地域共生のいえづくり支援事業」や「世田谷まちづくりファンド」をはじめとする世田谷区による市民まちづくりの支援が実施されている。 ・また、東京23区の中でもみどりや水辺などの自然環境や、近代建築などの歴史的文化遺産などを有する世田谷区では、トラスト運動が行われ、近年ではグリーンインフラの普及に向けた取り組みも進展しつつある。 ・このように世田谷区では、様々な面で先進的なまちづくりが展開されてきたと言えるだろう。他方で、市民主体の小さな取り組みが地球環境問題の解決に寄与するリジェネラティブ・デザインが世界的に模索されている。 ・変容する下北沢駅周辺が、住む人や、働く人、訪れる人それぞれにとって、関わりしのある地域であり続けるための仕掛けづくりを通じて、こうした先進的なまちづくりを牽引し、こうしたリジェネラティブ・デザインの先駆的事例として発展する可能性があるのではないか。 ・本演習においては、上記の状況、地域の資源、周辺状況を踏まえて、2050年に向けて、下北沢駅周辺について、リジェネラティブなまちを実現することを目標として、その実現のためのまちづくり事業を検討提案する。 ・目標とする街を実現する事業を検討提案することを通じて、地区単位のまちづくりの現況課題分析から計画及び実現手法の流れ、考え方、組み立て方法、論理(ロジック)を習得することを演習の目的とする。
成績評価方法	<p>「下北沢駅周辺における2050年を見据えたリジェネラティブなまちを実現するまちづくり事業」の検討作成 グループ課題(中間発表まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2050年を目標とし、下北沢駅周辺を舞台として、これまでの市民主体のまちづくりを起点として、地区固有の特性(下北沢の創造性や文化)を活かしながら地球環境問題の解決に寄与するリジェネラティブなまちの実現を目指す。そのための4テーマ(循環経済、自然再興、社会的包摂、防災)同士が相乗効果を生み出す地区ビジョンを提案する。 <p>個人課題(中間発表以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区ビジョンに基づくリジェネラティブなまちを実現する事業(ハード事業かつソフト事業)を提案する。

No.	講義日程	講義時限	講義者	講義形式	講義タイトル
1	10月7日	3～5限	向井隆昭 千葉元生	対面	イントロダクション・現地視察
2	10月14日	3～5限	中島弘貴 須永和久	対面	エスキス
3	10月21日	3～5限	中島弘貴 須永和久	対面	エスキス
4	10月28日	3～5限	中島弘貴 須永和久	対面	中間発表
5	11月4日	3～5限	中島弘貴 須永和久	対面	エスキス
6	11月18日	3～5限	中島弘貴 須永和久	対面	エスキス
7	11月25日	3～5限	向井隆昭 千葉元生	対面	最終発表
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

日常生活圏におけるリジェネラティブ・デザイン

特任講師 中島弘貴
非常勤講師 須永和久

1. 演習の狙い

- ・ 日常生活圏レベルの広がりを持つ地区を対象とするまちづくりの技法について、演習する。
- ・ 今年度は、東京都世田谷区にある下北沢駅周辺を演習の対象地とする。
- ・ 対象地区は、都市計画道路事業や小田急線の連続立体交差事業を契機として、小田急線「東北沢駅」～「世田谷代田駅」の地下化に伴う全長約 1.7km の線路跡地の開発「下北線路街」が「支援型開発＝サーバント・デベロップメント」というコンセプトの下、進められている。
- ・ 下北沢は、様々な文化の発信地としての歴史を有し、全世界対象の都市調査「Time Out Index」をもとに、「The 51 coolest neighbourhoods in the world (世界で最もクールな地域)」と題したランキングにおいて、ランクインしている(2022年;7位, 2019年;2位)。
- ・ 世田谷区では、市民主体のまちづくりが1980年代頃から展開され、「地域共生のいえづくり支援事業」や「世田谷まちづくりファンド」をはじめとする世田谷区による市民まちづくりの支援が実施されている。
- ・ また、東京23区の中でもみどりや水辺などの自然環境や、近代建築などの歴史的文化遺産などを有する世田谷区では、トラスト運動が行われ、近年ではグリーンインフラの普及に向けた取り組みも進展しつつある。
- ・ このように世田谷区では、様々な面で先進的なまちづくりが展開されてきたと言えるだろう。他方で、市民主体の小さな取り組みが地球環境問題の解決に寄与するリジェネラティブ・デザインが世界的に模索されている。
- ・ 変容する下北沢駅周辺が、住む人や、働く人、訪れる人それぞれにとって、関わりしるのある地域であり続けるための仕掛けづくりを通じて、こうした先進的なまちづくりを牽引し、こうしたリジェネラティブ・デザインの先駆的事例として発展する可能性があるのではないか。
- ・ 本演習においては、上記の状況、地域の資源、周辺状況を踏まえて、2050年に向けて、下北沢駅周辺について、リジェネラティブなまちを実現することを目標として、その実現のためのまちづくり事業を検討提案する。
- ・ 目標とする街を実現する事業を検討提案することを通じて、地区単位のまちづくりの現況課題分析から計画及び実現手法の流れ、考え方、組み立て方法、論理(ロジック)を習得することを演習の目的とする。

2. カリキュラム

① 対象地区

- ・ 下北沢駅周辺

② 実施期間

- ・ 2023年10月7日から11月25日の毎週土曜日(11月11日は休講)、午後1時から(最長)6時、7回。

③演習の進め方

- ・演習は基本的に対面とオンライン・在宅を組み合わせて実施する。
- ・最終成果物は個人レポート（下北沢駅周辺での事業提案）とするが個人が属するグループ全体のまちづくりの方向性やコンセプトを示す成果の作成も求める。

④演習の内容

「下北沢駅周辺における 2050 年を見据えたリジェネラティブなまちを実現するまちづくり事業」の検討作成

グループ課題（主に中間発表まで）

- ・2050 年を目標とし、下北沢駅周辺を舞台として、これまでの市民主体のまちづくりを起点として、地区固有の特性（下北沢の創造性や文化）を活かしながら地球環境問題の解決に寄与するリジェネラティブなまちの実現を目指す。そのための4テーマ（循環経済、自然再興、社会的包摂、防災）同士が相乗効果を生み出す地区ビジョンを提案する。

個人課題（中間発表以降）

- ・地区ビジョンに基づくリジェネラティブなまちを実現する事業（ハード事業かつソフト事業）を提案する。

⑤スケジュール

- ・7回実施する。第7回11月25日を最終成果発表とする。

□1日目：10月7日 駒場Iキャンパス(5号館513教室)及び下北沢で実施

ガイダンス・講義

13:00 - 13:30：駒場Iキャンパス5号館513教室に集合し、ガイダンスを行い、受講生を4名から5名の班に分ける（4班編成を予定）

13:30 - 14:00：向井隆昭氏(小田急電鉄株式会社)による講義「下北沢のまちづくり」(仮)

14:00 - 14:30：千葉元生氏(TSUBAME ARCHITECTS inc.)による講義「下北沢のまちづくり」(仮)

14:30 - 15:00：休憩・移動

15:00 - 16:00：現地視察 解散

□2日目：10月14日 本郷(141教室)

13:00 - 13:30：課題の進め方について

①班ごとのグループワーク：生成AIを用いた下北沢らしい画像と言葉のパタンの作成

13:30 - 14:00：生成AIについてのレクチャー

14:00 - 15:00：生成AIを用いた下北沢らしい画像と言葉のパタンの作成作業

15:00 - 15:30：成果発表・共有

②班ごとのグループワーク：現状課題の把握と関連する未来年表の作成

- 15:30 - 16:00 : 既存計画の読み込み・分析 ※参考資料を参照のこと
- 16:00 - 16:30 : 未来年表の作成 ※既存計画から把握した課題と関連する未来の出来事を抽出する。 <https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/>
- 16:30 - 17:00 : 班ごとに成果を共有
- 17:00 - : 必要に応じて班ごとに議論・作業

□ 3 日目 : 10 月 21 日 本郷(141 教室)

班ごとのグループワーク・エスキス

- 13:00 - 15:00 : 2 日目の成果を活かして、班ごとに4テーマ（循環経済、自然再興、社会的包摂、防災）同士が相乗効果を生み出す地区ビジョンを検討する。
- 15:00 - 17:00 : 検討した地区ビジョンについての相談：学生からの説明（10 分）+教員との議論(20 分) × 4(班)
- 17:00 - 17:10 : 総括コメント
- 17:10 - : 必要に応じて班ごとに議論・作業

※地区ビジョンの成果品としては、以下の要素を含んだ PPT を作成する。

前提:下北沢の白地図をベースにする

1. リサーチ：下北沢の地域資源やエリアの強み・弱み、関連する未来の出来事
2. 地区ビジョン：コンセプト、アイデアを詰め込んだダイアグラム（地図上に表現する or 生成 AI で世界観を示す）、アイデアの説明（循環経済、自然再興、社会的包摂、防災の4テーマ同士がどのように相乗効果を生み出すか、下北沢固有の特性がそこにどう活かされてくるか など）

※注意事項：PPT 一枚の中に長々と文章を書かない。キーワードを絞って、シンプルなページを作る。情報量が多いページは資料編に盛り込む。

□ 4 日目 : 10 月 28 日 本郷(141 教室)

中間発表：班ごとに地区ビジョンを発表

- 13:30 - 16:00 : 班ごとの地区ビジョンの発表、発表に対する教員のコメント
- 16:00 - : 必要に応じて個人ごとに議論・作業

□ 5 日目 : 11 月 4 日 本郷(141 教室)

個人ごとの事業提案エスキス

- 13:00 - 14:00 : 個人作業
- 14:00 - 18:00 : 班ごとに個人事業提案の相談（発表 5 分+教員からのコメント 10 分）
- ※事業提案の成果品としては、以下のものを作成する。

1. ハード事業のイメージを伝えるパース ※生成 AI で作成するのでも手書きでも構わない。
2. ソフト事業の仕組みを説明するダイアグラム（主体、マネタイズの仕組み、など）

(11月11日は都市計画学会大会のため休講)

□ 6日目：11月18日 本郷(141教室)

個人ごとの事業提案+班ごとの地区ビジョンの検討、エスキス

13:00 - 15:00：班ごとの作業

15:00 - 17:00：検討した地区ビジョンと個人提案を簡潔に説明(10分)+教員との議論(20分) × 4(班)

17:00 - 17:10：総括コメント

※修論ジュリーの終了が15:00より遅くなった場合には、教員と議論する15:00以降のスケジュールを後ろ倒し

□ 7日目：11月25日 本郷(141教室)

最終成果発表

13:30 - 16:30 班ごとの発表会(個人提案を含む)：教員、ゲストによる全体講評

⑥体制

ア. 教員

- ・中島弘貴 特任講師
- ・須永和久 非常勤講師(株式会社計画技術研究所代表取締役)

イ. 協力者

- ・向井隆昭氏(小田急電鉄株式会社)
- ・千葉元生(TSUBAME ARCHITECTS inc.)

⑦その他

生成AI(Midjourney)を使用するため、その利用料金\$60(1ヶ月あたり\$30)を各人でご負担いただく予定です。